

地域医療連携講演会

日時:平成27年 2月25日(水)

13:30~15:30

会場:国民宿舎 サンロード吉備路

◎ 開 会

◎ あいさつ

総社市長 片岡 聡一

◎ 講 演

「元医者之父が目指した明るい最期」

くさかべ よう 先生
久坂部 羊 先生

〈プロフィール〉

1955年大阪生まれ。大阪大学医学部卒業。

外科医、麻酔科医、パプアニューギニアなどの在外公館で医務官を経験。

2003年『廃用身』で作家デビュー。以後、現代医療の問題を鋭く指摘し、生きることや死ぬことの意味を問う作品を発表し続けている。

2014年『悪医』で第3回日本医療小説大賞を受賞。

作品は他にベストセラーとなった『破裂』『無痛』、在宅医療を舞台にした『いつか、あなたも』、エッセイに『日本人の死に時』『人間の死に方』『医療幻想』『ブラック・ジャックは遠かったー阪大医学生ふらふら青春記』などがある。

◎ 閉 会

「元医者之父が目指した "明るい最期"」

●父の生い立ち

- ・1926年3月31日生まれ（享年満87歳）
- ・一人っ子で競争が苦手（従兄弟に負ける 小学校でもいちばんチビ → 先手必敗、無欲主義）
- ・父親としても先手必敗 反抗期も受け流す 成績は下からスタートしたほうがいい 父と息子の葛藤ゼロ 逆に敬意を感じ、親孝行に
- ・墓参りの歴史話＝大安寺 曾呂利新左衛門 妙国寺のソテツ 堺事件

●近代医療ざらい

- ・麻酔科医は医師の中で、唯一、患者を直接治療しない
- ・医療の傍観者の立場で、外科医らの無理な手術・過剰な医療に批判的
- ・外科医から麻酔科医へ 外科医批判「無茶な手術で患者を死なせた」
「いらんことをして患者を苦しめる」 病気を治すことと患者を生かすことの矛盾

●糖尿病

- 父は戦中派で飢餓体験あり → 食いしん坊 → 30代で糖尿病の診断を受ける
- 専門医の指導で食事療法 → 空腹でストレス増加 → 血糖値改善せず
- ストレスの害のほうが大きい → 食事療法中止 → 以後、検査せず
- 69歳のとき、半年で体重が20kg減少 → 倒れる → 重症の糖尿病と診断
- インスリン自己注射 → 足の指が腐る → 放置 → 治癒

●白内障

- 重症の白内障 → 放置 → 嫁に手術を勧められる → 無碍に断れず
- コインに運命を託す → 手術 → 視力改善せず

●前立腺がん

- 突然の排尿困難 → 病院で導尿 → 念のために検査 → 前立腺がん発見
- 入院拒否 → ホルモン剤のみ服用

●転倒・圧迫骨折

- 「幸せな人生やった。もう十分生きたから何もせんでもいい」
- 死亡診断書の手配（実の息子が書くのはマズイ）
- 医師の診察「苦しまないようにできるだけ早く死なせてほしい」 → 医師困惑。
- 痛みの軽快にともない食欲回復 → 一カ月ぶりの排便 → リハビリ開始

●認知症発症

- 興奮・混乱 → 経過観察 → 妄想・妄言 → 経過観察 → 米寿の祝い
- 在宅での看取り